

早雲寺殿廿一箇条

ほうじょう・そううん

作者:伝 北条早雲(?-1519)

成立:不詳



解題

Keyword

- 伊勢宗瑞
- 「北条五代記」
- 小田原北条氏

戦国武将・北条早雲(伊勢宗瑞)が定めたと伝えられる家訓。「北条早雲」は俗称であるが、一般に最も知られている名前としてここでもそれをを用いる。

■ 成立と諸本

成立時期は不明であり、早雲が実際に制定したとの確証もない。江戸初期の『北条五代記』(#11)巻1には早雲の作として全文が引用されており、この時期までには早雲による家訓として世に知られていたことがわかる。原本は伝わらず、現存する写本も『北条五代記』や『群書類従』を書写した近世のものと思われる。近代以後は各種の叢書に翻刻が収録されている。



(写本)『早雲寺殿廿一箇条』表紙と巻頭

■ 作者

戦国大名北条氏の始祖・早雲の本名は伊勢新九郎盛時、出家後の法名は早雲庵宗瑞(そうずい)である。その生涯は不明の部分が多く諸説があるが、近年の研究で出自は備中国を本拠とする京都伊勢氏とされ、生年も従来の永享4年(1432)より20年以上後とする説がある。足利将軍家、駿河今川氏に仕えたあと、明応年間(1492-1501)伊豆の戦国大名として自立、大森氏の小田原城を奪い西相模も支配した。さらに永正13年(1516)三浦氏を滅ぼし相模国を平定し、武蔵・房総にも勢力を伸ばした。永正16年葦山城で死去。二代氏綱は小田原を本拠に北条姓を

名乗り、以後五代氏直まで小田原北条氏の勢威は関東を圧した。

内容

書名のとおりに21か条から成り、簡潔な文章でわかりやすく書かれている。仏神の信仰に始まり、早寝早起き・掃除・防犯・火の用心等の家政上の注意、出仕時の主君への対応・立ち居振る舞い、読書・歌道・乗馬等の修養までが順次説かれ、最後は文武を兼備すべきことで結ばれる。素朴ではあるが、きわめて实际的・具体的な内容を持ち、戦国武士の生き方を間近にみる思いがする。



史料本文を読む

<写本>

- 『早雲寺殿廿一ヶ条』1828(文政11)写 [K15.7/2]

<翻刻本>

- ◆「早雲寺殿廿一箇条」(『群書類従』第22集 武家部 巻403) [K08/17/1-22]
- ◆「北条早雲廿一箇条」(『日本教育文庫 家訓篇』日本図書センター 1977 [370.8/47/3]) ※同文館1910年の覆刻
- ◆「早雲寺殿二十一箇条」(『日本経済大典』第1巻 史誌出版社 1928 [308/16/1])
- ◆「早雲寺殿廿一箇条」(『武士道全書』第1巻 国書刊行会 1998 [156/113/1])
※時代社1942年刊の覆刻
- ◆「早雲寺殿廿一箇条」(『中世法制史料集』第3巻 岩波書店 1965 [K24/135/3])

<注釈本>

- ◆「早雲寺殿廿一箇条」石井進校注(『日本思想大系21 中世政治社会思想上』岩波書店 1972 [K32/20/1])
- ◆「早雲寺殿廿一箇条」(『武家家訓・遺訓集成 増補改訂』小澤富夫編集・校訂 ペリかん社 2003 [156.4MM/102]) ※翻刻底本は神奈川県立図書館蔵の写本



史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆近藤斉「北条五代の家訓」(『戦国時代武家家訓の研究』近藤斉著 風間書房 1978 [156.4/2])
- ◆佐藤和夫「北条氏の家訓：早雲寺殿廿一カ条」(『戦国武将の家訓』佐藤和夫著 新人物往来社 1986 [K24.7/71])
- ◆横田光雄「『早雲寺殿廿一箇条』の形成と宗教」(『戦国大名の政治と宗教』横田光雄著 国学院大学大学院 1999 [210.47/195])